

参加者から寄せられた質問等

注: 寄せられた質問に対する個別の回答についてのお問い合わせは、各回答者に直接お訊ね下さるようお願いいたします。

No.	回答者			内容に関する質問/意見(入力事項)	公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック協議大会組織委員会の回答	東京都の回答	東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局の回答
	組織委	東京都	オリパラ推進本部				
1	○	○	○	五輪への環境対策への取組みが現時点でみてこない。特に、都知事の意向を開ければと思っています。	大会での環境対策については、持続可能性に配慮した運営計画(以下「計画」という)に位置付けることとしています。大会の環境配慮について、基本的方向性を定めた計画第1版を本年1月に策定公表したところで、今後、環境配慮の具体的な目標及び施策を記載した計画第2版を策定する予定です。	持続可能性は、IOCが採択した「オリンピック・アジェンダ2020」でも大きなテーマとなっており、東京大会を最大限、持続可能性に配慮した大会にしていきたいと考えております。 都では、今年6月に「ホストシティTokyoプロジェクト推進本部」を立ち上げ、5つの分野のプロジェクトを推進していくこととしました。この中で、環境対策についても、関係局が連携しながら、ホストシティとしてのプロジェクトを展開してまいります。具体的には、選手村などでの水素エネルギー利用の推進や再生可能エネルギーの普及促進、また暑熱対策などに取り組んでまいります。 さらに、大会組織委員会では、今年度末に、具体的内容を盛り込んだ「持続可能性に配慮した大会運営計画 第2版」を策定することになっており、都としても、組織委員会をしっかりとサポートしてまいりたいと思います。	質問No.1、3、5については組織委員会が回答することが適当と考えられますので、組織委員会からの回答をご確認いただければと思います。
2	○	○	○	地球温暖化の問題が深刻化する中、東京オリンピック・パラリンピックは世界に日本の取り組みをアピールする良い機会だと思います。環境の持続可能性のために、日本としてなにをアピールするべきとお考えでしょうか？	当会としても、日本として持続可能性配慮の取組を発信する良い機会と捉えておりまして、現在、有識者による検討会を含め所要の検討を行っております。東京大会で実施するべき取組は今後策定を予定している計画第2版に位置付けることとしています。	たとえば、選手村地区では、大会とさらにその先をいならんで、水素エネルギーに関する新技術を活用した、環境先進都市のモデルとなる街を実現します。具体的には、燃料電池バスなどの車両への水素を供給する水素ステーションを街区内に整備するとともに、実用段階としては日本初となる住宅などの街区への供給を進めます。こうした取組等により、世界中から多くの人が集まる大会時を、我が国の環境先進技術を知ってもらう機会ととらえ、プレゼンテーション事業を実施したいと考えております。 また、既に多くの都民の皆さまの参加をいただいているメダルを作るための携帯電話等の回収をはじめ、食品ロスの削減などの取組により、「もったいない」の理念を呼び醒まし、社会全体に持続可能な概念を浸透させ、この「もったいない」の理念を東京・日本を象徴する言葉として世界に広げていきたいと思っております。	日本は、パリ協定の締約国として、2030年度に26%削減、2050年に80%削減という温室効果ガス排出量の削減目標を掲げております。 2020年東京オリンピック・パラリンピックを徹底的に環境配慮した大会にするため、政府としては、燃料電池バスの導入により運輸部門における低炭素化やリサイクルメダル製作への協力等に取り組んでいます。 こうした東京2020大会での取組を始めとした日本の優れた環境技術やノウハウ、資源循環システム等を国内外に発信し、アピールしていきたいと考えております。
3	○	○	○	2020大会に向け、開越道、東北道などの高速道路に期待することは何でしょうか。	開越道は現在、オリンピック・ルート・ネットワークとして設定する予定と聞いており、大会関係者の円滑な輸送に資することを期待している。また、東京2020大会では、大会関係者の円滑な輸送と都市活動の安定の両立を目指しており、開越道、東北道を含めた高速道路は、大会期間中における各種車両の移動を円滑に行うための大動脈として機能することを期待する。	東京大会では、選手やメディアといった大会関係者などを安全、円滑に輸送するうえで、高速道路の果たす役割は非常に大きいものがあります。 一方で、開通後30年以上経過した区間が約4割を占め、橋梁やトンネルなどの老朽化も顕著となってきたと聞いています。 各高速道路会社におかれましては、安心・安全な大会輸送が提供できるよう、高速道路インフラの適切なメンテナンスをお願いしたいと考えております。 また、大会後も、自動走行システムや交通安全技術など、将来の社会の新たな展開を見据えた技術開発の舞台としての役割を果たしていくことを期待しています。	質問No.1、3、5については組織委員会が回答することが適当と考えられますので、組織委員会からの回答をご確認いただければと思います。
4		○		水素五輪についてをもっと具体的に教えて下さい。		世界中から多くの人が集まる大会時を、水素の有用性や我が国の環境先進技術を知ってもらうことは重要です。 都では、選手村地区において、大会とさらにその先をいならんで、水素エネルギーに関する新技術を活用した、環境先進都市のモデルとなる街を実現します。具体的には、燃料電池バスなどの車両への水素を供給する水素ステーションを街区内に整備するとともに、実用段階としては日本初となる住宅などの街区への供給を進めます。 また、再生可能エネルギーの電力で水を分解して製造した、いわゆるCO2フリー水素が普及すれば、さらなる環境負荷の低減につながります。都は昨年5月、福島県などとCO2フリー水素の普及に向けた協定を締結し、大会開催時には、都内での福島県産CO2フリー水素の活用に向けて連携を図ってまいります。 さらには、空の玄関口である羽田空港で水素の活用が進めば大きなPR材料となります。都は今年度、羽田空港内での水素ステーション設置や、燃料電池フォークリフトの導入を図ることとしています。併せて、ターミナルビルの施設等を活用し、空港内での水素利活用に関する情報発信も行っております。 こうした取組を通じ、2020大会の際には、都民の皆さまはもちろんのこと、国内や世界中から東京を訪れた方々に、水素エネルギーが活用されている姿をご覧いただきたいと思っております。	
5	○	○	○	聖火台は、相変わらずオイルを燃やす方式でいくんですか？再生可能エネルギーによるバーチャル聖火にすべきではないですか？その事実をオリンピックの最後に世界中に公表すれば、大きな拍手と称賛に包まれる事でしょう。	聖火については、IOCの規定に従い、今後検討していきます。	本件については、組織委員会からの回答をご覧くださいませようお願いいたします。 〔参考:組織委員会回答〕 聖火については、IOCの規定に従い、今後検討していきます。	質問No.1、3、5については組織委員会が回答することが適当と考えられますので、組織委員会からの回答をご確認いただければと思います。
6	○			オリンピックで使う建設資材の再利用について。	東京大会では、建設資材のリユース・リサイクルに積極的に取り組むこととしています。		
7	○	○		オリンピック時のゴミの廃棄、収集、運搬システムについて	東京大会では、効率かつ適切な廃棄物の収集運搬処理が必要と考えています。	本件については、組織委員会からの回答をご覧くださいませようお願いいたします。 〔参考:組織委員会回答〕 東京大会では、効率かつ適切な廃棄物の収集運搬処理が必要と考えています。	
8		○		東京都への質問 :東京都は持続可能な購入方針をつくらないんでしょうか。		2020年大会を持続可能性に配慮した大会とすべく、環境や人権、労働等に配慮し準備に取り組むことは重要です。 都については、「東京都グリーン購入推進方針」や「東京都環境物品等調達方針(公共工事)」を定めるなど、既に持続可能性に配慮した契約制度になっております。 今後とも、持続可能性に配慮した大会の実現に向けて、適切に対応してまいります。	
9	○			組織委員会への質問:組織委員会以外に、協議開催地(県・市)に持続可能な購入の実施を要請するのでしょうか。	当会が策定した「持続可能性に配慮した調達コード」については、今後、関係自治体にも尊重を働きかけていく予定です。		
10	○	○	○	東京2020オリ・パラリンピックに向けて、学生120名くらいで集まって活動しています。若者の世代をどうやって巻き込んでいくかという視点が重要になってくると思うのですが、「持続可能性」の部分において、一体何をすれば良いのでしょうか？若者(学生)に対して、何か協働して頂けるお話がありましたら、是非お聞かせ頂けないでしょうか。	東京大会では、「大会ボランティア」を募集する予定で、この大会ボランティアは、多くの人が直接大会運営に参加できる方法でもあり、大会の雰囲気や達成感の一躍を担っていきます。学生を含む「若者」にも是非積極的に応募いただき、活躍いただきたいと考えています。また、持続可能性に特化したところでは、持続可能性への配慮を最大化する様々な取組の実施を検討しているところで、今後、連携いただけることもあろうかと思っています。	本件については、組織委員会からの回答をご覧くださいませようお願いいたします。 〔参考:組織委員会回答〕 東京大会では、「大会ボランティア」を募集する予定で、この大会ボランティアは、多くの人が直接大会運営に参加できる方法でもあり、大会の雰囲気や達成感の一躍を担っていきます。学生を含む「若者」にも是非積極的に応募いただき、活躍いただきたいと考えています。 また、持続可能性に特化したところでは、持続可能性への配慮を最大化する様々な取組の実施を検討しているところで、今後、連携いただけることもあろうかと思っています。	組織委員会や東京都は、若者も応募可能なボランティアを募集する予定と伺っています。また、環境省では、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会でボランティアスタッフとして大会の3Rを推進するとともに、レガシーとして大会以降も各地で3Rを推進する人材を創出していきたいと考えており、3R人材育成プログラムの作成や関係機関との調整を行っていると同っております。